助成事業完了報告書

日本財団　会長　笹川　陽平　殿

報告日付:2019年4月10日
事業ID:2017448189
事業名:鳥取県鳥取市における第三の居場所の運営
団体名:特定非営利活動法人
こども・らぼ
代表者名:岡　武司　　印
TEL:070－3789－4565
事業完了日:2019年3月31日

事業費総額	28,660,000円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	0円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	28,660,000円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	0円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容(実績　700文字以内):

1．鳥取県鳥取市における第三の居場所(以下、鳥取拠点)の運営
時期:2018年4月～2019年3月末
場所:鳥取県鳥取市
内容:「家でも学校でもない第三の居場所」で社会的相続を補完する。専門スキルを備えたスタッフを配置し、子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲の向上を支援する。

2.事業内容詳細:

①2018年4月に運営を開始する予定であったが、建物の登記にかかわる問題が発生し、着工が2018年4月に、開設が2018年7月に延期となった。同施設で行われる行事への配慮や台風の影響で工期がさらに延び、8月1日に建物が完成、8月16日から運営開始となった。

②利用児童の保育内容充実のため、アルバイトスタッフ4人を採用した。アルバイトスタッフの中には、社会福祉士、看護師の資格を持った方も採用し、家庭の状況や健康などの利用児童の課題の解決に向けて、専門的な見地からアドバイスをもらいながら保育を行った。

③生活習慣の確立に向けて、食事後の掃除、皿洗い、白衣や体操服の洗濯などの仕事を利用児童に振り分け、「自分でできる」ようになるための保育内容を充実させた。

④鳥取拠点の利用を家庭の問題点の改善につなげるため、鳥取市こども家庭課、学校、要対協、児相との関係の構築に力を注いだ。

3.契約時事業目標の達成状況:

【助成契約書記載の目標】

1. 拠点利用児童の募集
2. 児童への居場所、読み聞かせ、学習支援、食事の提供
3. 保護者、地域、行政との関係構築
4. 全国展開に耐えうる事業モデルの構築

【目標の達成状況】

1. 鳥取市こども家庭課と連携して利用児童の募集を行った。こども家庭課の担当者が小学校、保育園、幼稚園等の関係機関へ出向いて、パンフレットの配布や情報収集を行った。庁内での検討会を経て利用が適当と思われる家庭に訪問し、個別に説明を行った。利用を希望する家庭については直ちに鳥取拠点の見学、説明会を行った。利用とならなかった家庭については、その後の利用を目指して、こども家庭課が状況の把握を続けている。

2. 利用児童の健全な育成を目指して、個別の指導計画を作成し、支援を行った。
本拠点では、生活習慣に問題を抱える児童が多かったため、生活習慣の確立に重点を置いて取り組みを行った。特に洗濯、入浴については、拠点での生活を通して自分で意識できるように働きかけを行い、少しずつではあるが習慣化することができている。
読み聞かせについて、読書への抵抗感が強い児童が多く、拠点内で読み聞かせを実施することがほとんどできなかった。そのため、「鳥取県立図書館へ本を借りに行く」、「宿題の音読を教科以外の本で行う」、「児童が興味を示す本を配置する」など、本に親しむための取り組みを行った。その結果、徐々にではあるが利用児童が本を手にする機会が増えてきた。行事の中で自分の出し物として読み聞かせを行う児童もおり、読み手、聞き手ともに大変好評であった。
家庭で学習する習慣がなく、利用児童の多くが低学力であった。学校の宿題を必ず終わらせることを徹底し、長期休業中の課題についても徹底してやりきらせた。拠点での学習習慣を確立させることはできているが、閉所日に家庭で学習できるところまでは至らなかった。宿題の他に鳥取県教育委員会の作成したドリルを活用して、補填的な学習を行った。目に見えた学力の向上は感じられないが、学習に取り組む姿勢を作ることはできたと考える。
食事について、おかずは業者の宅配を利用し、ご飯、汁物を拠点で作って提供した。家庭で十分な食事をとっていなかった児童もおり、標準体重の範囲内で大幅な体重の増化がみられた。調理に強い関心を持っている児童がおり、お菓子作りのほかに毎日の汁物の調理を一緒に行うことができるようになったのはうれしい誤算であった。

3. 連絡ノートを利用した保護者とのやり取りだけでなく、お迎え時には必ずその日1日の様子を直接伝えるなどして、保護者との関係向上に努めた。また、12月からは通信を発行し、利用児童の様子をより丁寧に保護者に伝えることに努めた。
当初は学校との連携が思うように進まなかったが、利用児童の変化が学校にも伝わり始めたのを機に、お迎え時の担任や管理職との会話も増えた。鳥取拠点をより深く理解してもらうために、「居場所カフェ」というイベントを開催し、利用児童が担任を招いてお茶とお菓子をふるまった。

4. 今年度は、関係機関のケース会議に3回出席した。情報交換を行う中で、鳥取拠点で得た情報の中には、学校では把握しがたいものがあることが分かってきた。逆に言えば、鳥取拠点だけが把握している情報も多い。これらの情報から浮かび上がってくる問題は、利用児童への働きかけのみによって解決するものではなく、解決する手段を持つ機関と連携することが必要となってくる。
鳥取拠点では、利用児童の様子から明らかになった家庭の状況を蓄積し、関係機関と情報共有を行うことで「世帯丸ごと」を支援する仕組みを作ることを目指しているが、本年度はまずその足掛かりを作ることができた。

4.事業実施によって得られた成果：

・面談時に、利用児童から、「勉強ができるようになってきた」、「鳥取拠点に来る前は、宿題を終わらせられなかったが、終わるようになった。」ということばが出てきている。
・半年間の運営を通して、鳥取市内の児童福祉にかかわる施設、機関に鳥取拠点の意義と価値を浸透させることができつつある。

5.成功したこととその要因：特になし

6.失敗したこととその要因：特になし

事業成果物

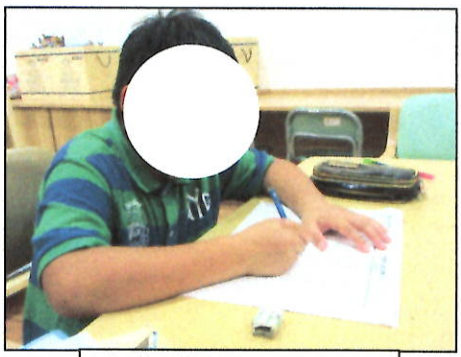
初詣

紙漉き体験

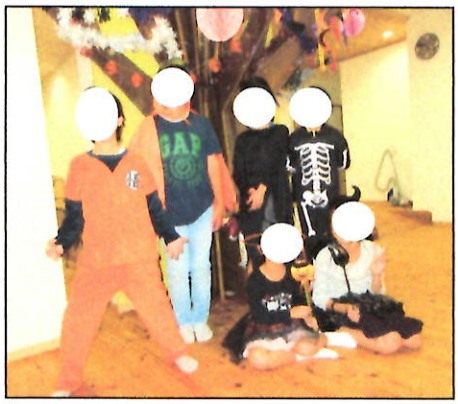
日常風景

クリスマス会

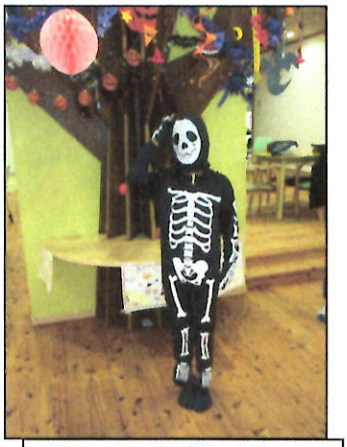
日常風景



日常風景



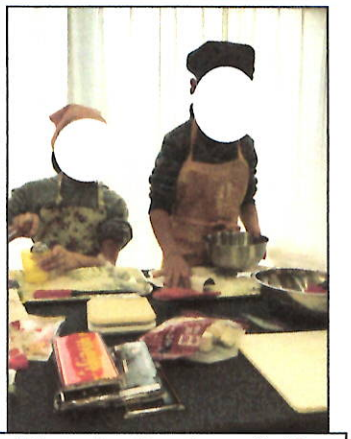
ハロウィンパーティー



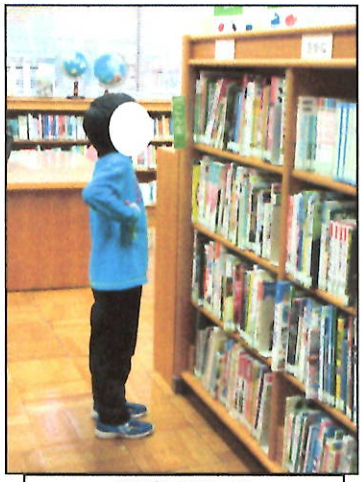
ハロウィンパーティー

ハロウィンパーティー

散歩



バレンタインチョコ作り



図書館利用

日常風景

マフラーづくり

歯磨き指導

COOP社会見学

COOP社会見学

進級お祝いの会

居場所カフェ

事業成果物URL

http://nippon.zaidan.info/jigyo/2018/0000093086/jigyo_info.html